

はんだ付けにも挑戦

相馬で「でんし工作教室」



スクールに参加した小野田さん（左から2人目）ら

【鈴木博・ふるさと記者】キッズ工作スクール相馬（中田稔代表）

の「でんし工作教室」は相馬市中央公民館で開かれた。

アルプスアルパインの共催。同教室は東日本大震災後の二〇一二年（平成二十四）年、アルプス電気相馬の社員やOBが被災した子どもたちのために立ち上がり、島田靖孝さん（現相馬アルプスOB会長）らを中心にスタートした。新型コロナウイルス感染症に負けないと、昨年は例年より多い年間七回開催し、通算で四十八回となった。

今回は小学二年生から六年生までの十一人と保護者七人、ボランティアスタッフ十人が参加した。子どもたちは「金属探知機」「AM/FMラジオ」「落ちないロボ」「ミニグランドピアノ」などから事前に好きなメニューを選択して工作に挑戦し、約三時間かけて作品を仕上げた。

弟と一緒に参加した小野田優菜さん（中村二小五年）は「はんだ付けが多くて最後までできるか心配だったが、自分だけのミニグランドピアノが出来上がったうれしい」と話していた。

同スクールは昨年十月からプログラミング教室も開設している。問い合わせは中田代表 電話080（1831）3149へ。